

平成28年度
社会福祉法人明日へ向かって事業計画書

〔重点事項〕

1. 安全・安心な介護の確立

- (1) プロ意識をもち、介護ミスや利用者の怪我を無くす。
- (2) 自動車運転の講習会等や事故の処分を見直し、安全な送迎サービスを実施する。

2. 重度障がい者の活動の見直し

- (1) 2号館の利用者特性を意識して活動プログラムの定着を図る。
- (2) 4号館の活動種目を見直し、マンネリ化を防ぐ。

3. 工賃の引き上げ

- (1) 就労継続支援の平均工賃を3万円台に引き上げる。
- (2) 生活介護における生産活動の見直しと物品販売の促進

4. 文化活動部署の設置

- (1) 各セクションの利用者と職員が横断的に取り組む部署（G o O n）を創設する。
- (2) ガムランを軸にした音楽活動を本格化し、ワークショップを実施する。

5. 意志決定支援の確立

- (1) 利用者自治会を活発化し、活動内容や支援について、意見を出し合う場をつくる。
- (2) 意思をもつことができるように経験支援を充実する。

6. 生活支援の拡充

- (1) 24時間、365日の支援と緊急な支援に対応するため、平日に偏らない職員体制を目指す。
- (2) 家族との同居からグループホームへの移行に関する利用者と家族の意向を把握し、ニーズや課題を整理する。必要に応じて、新規ホームを設置する。

7. 経営基盤の強化

- (1) 収支のバランスや人件費率の適正化を図り、内部留保に努め、今後の事業展開や緊急時に万全を期す。
- (2) 部署ごとの利用状況や稼働率を確認し、必要なサービスの充足を管理する。

8. 職員の資質向上

- (1) 職員のスキルアップとキャリアパスのシステムを構築し、管理職の増員を図る。
- (2) 賞与査定を見直し、各職員が長所短所を把握し、目標意識の高揚を図る。

9. 運営課題の検討

- (1) グループホームの専門職員を育成し、支援体制を充実する。
- (2) 職員数を増員あるいは維持していくための人材育成・確保に努める。

〔ワークショップたちばな〕

1. 利用定員と年度当初の利用者数

- (1) 就労移行支援事業
 - ①利用定員 15名
 - ②利用者数 13名（前年4月：15名）
- (2) 就労継続支援事業B型
 - ①利用定員 60名（前年4月：30名）
 - ②利用者数 43名（前年4月：41名）

2. 事業種目と注力点

(1) 青葉1号館「屋号：ワークショップたちばな」

- ①菓子・雑貨販売コーナーの運営
- ②生菓子の製造
- ③アクセサリーの製造
- ④各種レクリエーション
- ⑤来客者とのワークショップ（ものづくり）

〔注力点〕

- ①地域との交流を促進させるために、ワークショップの活動内容と進行を再検討し活発化させる。来客者への対応マニュアルを作成し、担当者を配置して役割を確立し、法人の窓口機能を充実させる。
- ②障がい程度は比較的重くないが、喧騒な雰囲気やハードな作業が難しい利用者にとって最適な活動を準備し、1号館の役割を明確化する。既存の活動内容を整理し、新たに文化的な活動を企画・実施する。また、一人ひとりに合わせた支援ツールを製作し、活用する。
- ③工賃アップを目指した商品を見直し、売上の向上に努める。
 - ・パン事業の開始と販売促進
 - ・小学生向け入学グッズやランドセルカバー等の縫製品の販売促進。
また、2・4号館の製造も含めた管理を担う。
 - ・スティックチーズケーキを通年商品として位置づけ、販売戦略を立案・実施。

(2) 青葉3号館「屋号：菓子工房ぷぶる」

- ①焼き菓子の製造
- ②菓子の配送
- ③自立生活支援

〔注力点〕

- ①職員の過負担にならないような安定した体制の確立
 - ・職員の増員にともなう役割分担の見直し
 - ・業務・作業マニュアルの整備
 - ・サブリーダーの養成
 - ・繁忙期と閑散期における職員配置の明確化
- ②日々の製造量の均一化と効率化
 - ・菓子の冷凍保存を本格実施
 - ・大量生産に見合う製造機器の導入
 - ・受注管理・製造計画のコンピュータシステムを運用開始
 - ・商品数の絞り込み
 - ・利用者の作業導線、役割分担の見直し
 - ・写真やイラスト付きマニュアルの活用
- ③ワンランク上の工賃に引き上げるための取組み
 - ・相互カタログの活用促進（他施設商品の販売強化）
 - ・新たな看板商品の開発
 - ・定期的な季節（期間）限定商品の販売
- ④生活支援の充実
 - ・運動機会を増やし、肥満防止に努める。
 - ・事業所内外における交友関係や社会参加状況を把握する。
 - ・個別ニーズに対応した外出活動やイベント参加、旅行を実施する。

(3) カフェ オリジナルスマイル

①調理 ②接客 ③菓子・雑貨の販売

〔注力点〕

- ①前年度の売上を維持し、利益の増加を図り、賞与を支給する。
 - ・費用対効果を踏まえた上で、各種広告や雑誌媒体を活用し集客する。
 - ・旬な食材を使った飽きのこないメニューを考案し、リピーターを増やす。
 - ・天候や近隣の行事などを意識し、ランチの準備数量を考えることで廃棄を減らしコストを削減する。
 - ・カフェギフト（ドリップ式の珈琲や紅茶等）の販売を開始する。
- ②利用者の能力向上やモチベーションアップにつながる活動の実施。
 - ・能力チェック表や指標を活用することで、課題を整理する。
 - ・レベルアップ時に表彰するなど、分かりやすく評価する。
 - ・利用者が企画した商品の販売
 - ・利用者が盛り付けできるような商品の開発、販売
- ③利用者を増員するための役割分担とローテーション、支援体制の見直し
 - ・実習生を受け入れる際の担当作業や求める能力を整理
 - ・他部署からの移籍を踏まえ、体験機会の確保に努める。
- ④イベントによる売上アップの活性化
 - ・年間を通して、ターゲットを意識したイベントを主催する。また、イベントの場所貸しと飲食提供による収益を図る。
 - ・障がい児を対象に「子供店員カフェ」を開催し、調理や接客を体験してもらうことで、参加児童の家族や関係者の集客につなげるとともに、将来の利用希望の契機とする。
 - ・音楽ライブなどのイベントを企画し高収益を図る。
- ⑤法人全体でカフェを活用できるように努める。
 - ・毎月、グループホーム利用者に来店してもらい、スイーツを提供するとともにカフェ利用者との交流機会とする。
 - ・他部署の職員が来店するための特典などを検討する。
 - ・研修会や会議など、法人主催のイベントを誘致する。

〔 M y s e l f 〕

1. 定員と年度当初の利用者数

- (1) 利用定員 60名
- (2) 利用者数 89名（前年4月：77名）

2. 事業種目

(1) 青葉2号館

①音楽活動（ガムラン） ②カタログ販売 ③レクリエーション

〔注力点〕

- ①2カ所ある生活介護事業所のなかで、売上向上を担う担当部署としての役割を確立し、2・4号館の工賃アップを図る。
 - ・カタログ販売事業において、チラシの準備から営業、梱包、配達、入金までのプロセスを整理し、役割分担の見直しと営業強化に努める。
 - ・陶芸事業の開始と姉妹店での販売方法の検討

- ②地域連携・音楽事業の拠点施設として、ガムランのスキルアップを図りつつ、来客を交えてワークショップスタイルで演奏するノウハウを構築。
- ③写真や絵カード等の支援ツールを準備し、利用者自身でできることを増やす。
- ④強いこだわりや他害行為のある利用者に対して個別性の高い支援プログラムを確立する。

(2) 青葉4号館

- ①キャンドル・ランチョンマット・ガーゼハンカチの製造
- ②小学生向け各種布袋及びランドセルカバーの製造
- ③各種レクリエーション ④運動・ストレッチ

〔注力点〕

- ①「安全と活気」をスローガンに体制と仕組みづくりを確立する。
 - ・新規利用者の介助方法を早期に確立し、既存利用者を含めたサポートブックの整理と活用に努める。
 - ・スーパーバイザーの役割と業務内容を整理し、効率的に介護スキルを指導・伝達できる仕組みをつくる。
 - ・介護ミス、車両事故をなくし、一人ひとりが緊張感とプロ意識をもつ。
 - ・重度者が多くても明るい活動空間をつくるための工夫を検討する。
- ②フロアリーダーとグループリーダー、パーソナリティの役割を明確化し、適正な運営と業務遂行、報告・相談・指示等の連携を強化する。
- ③作業や各種活動のマネリ化を防ぎ、書道パフォーマンスや音楽活動などを導入しつつ、新商品の開発による新しい作業工程をつくる。
- ④外出活動やストレッチの取組において、対象者がかたよらないように配慮する。
- ⑤活動の「時間短縮と集中」によって、1日にメリハリをつけるなど、1日のスケジュールを見直すとともに職員が日中に庶務を行う時間をつくる。
- ⑥縫製品及び雑貨、米の販売方法を見直し、キャンペーンの企画や姉妹店との連携強化により、売上・工賃アップに努める。
- ⑦地域住民が参加できるイベントやエアロビクス教室、また専門学校や大学の学生が企画立案する行事を実施する。
- ⑧業務マニュアルを作成し、始業から終業までの定型業務を適切に実施し、効率よく職務を実施できるように努める。
- ⑨タブレットやスイッチ機器、音声機器、プロジェクターなどを積極的に活用する。

〔ときめきショップありがた屋〕

1. 体制

- (1) 障がい者スタッフ 4名のローテーション
- (2) 支援職員 常勤3名とパート2名のローテーション

2. 営業

- (1) 開店日 毎週月曜日～日曜日 ※年末年始は休店の予定
- (2) 時間 10:00～20:00 ※日曜日・祝日は、18時に閉店

〔注力点〕

- ①店頭販売の売上向上
 - ・イベント日を増やし、新規顧客及びリピーターを獲得する。

- ・「手づくり」を売りにした店舗であることを改めてPRする。
- ・イトインを再検討し、メニューを充実させる。
- ②相互カタログ事業を見直し、受注から納品までの時間短縮を図る。
- ③業務のマニュアル化と出店時の販売ツールを確立し、職員配置を効率化する。
- ④大量受注や出店準備のために店舗内に作業スペースを設置する。
- ⑤これまで蓄積してきた売上データや販促の取り組み、取引施設との受発注など、運営全般を振り返りノウハウを整理し、将来の新店舗開設に備える。
- ⑥個別支援を深め、段階的に就労能力を引き上げ、また運動機会をつくることでの健康維持に努める。

〔ヘルパーステーションたちばな〕

1. 支援対象 身体障がい者・知的障がい者
2. 支援内容
 - (1) 居宅介護 入浴／排泄／食事／衣類着脱／身体清拭／通院／相談
調理／洗濯／掃除／買い物／関係機関との連絡
 - (2) 行動援護 重度知的障がい者への移動援助
 - (3) 移動支援 外出時の移動

〔注力点〕

- ①様々な障がい特性に対応できるよう、また新人職員が適切な支援を行えるように、サポートブック活用の徹底とスーパーバイザーが指導する仕組みを構築する。
- ②利用者のニーズが現場の支援に反映されるように、支援計画と実際のサービス、記録と伝達の仕組みを整理する。事前準備を重要視しサービスのスケジュールや配慮点等を踏まえ、目的ある支援に努める。
- ③見守り的な支援の際に取り組むグッズ等を拡充する。

〔ショートステイ〕

1. 支援対象 身体障がい者・知的障がい者
2. 支援内容 食事提供・入浴・余暇活動（交流活動）

〔注力点〕

- ①入浴や服薬など、通常にない支援でも安全に業務を遂行する意識を高め、不手際を生み出さないような仕組みづくり。
 - ・支援実施計画の運用とチェック機能の改善
 - ・スーパーバイザー等による助言体制の確立
- ②職員が服薬の重要性を強く認識し、チェック機能を改善する。
- ③緊急一時保護の対応方法を見直し、当該機関からの要請、本人との面談、情報収集、支援者の確保と伝達などのプロセスを確立する。

〔グループホーム〕

1. 支援対象 知的障がい者
2. 定員 13名
3. 共同住宅

土井1丁目ホーム	アメニティホーム
八田団地ホーム	若宮サテライトホーム

〔注力点〕

- ①新規に市営住宅のグループホームを開設し、4名の待機者に住まいの場を提供。
- ②医療面における支援の拡充
 - ・一人ひとりの健康状態を把握し、必要な治療と予防の両面で支援する。
 - ・医師に指示書の作成を依頼し、情報の共有ができる仕組みをつくる。
 - ・個々の定期通院を「治療」「経過観察」「薬の処方」等に分類し、可能な限り医療機関を集約する。
- ③年齢や個々のニーズ、障がいの状況、または収入に応じた旅行を企画する。移動支援制度を利用できない方への定期的な外出機会の確保。
- ④個々の身近自立の状態を把握し、苦手なものにスポットをあて、支援計画に「成長を促す項目」を定めた上で個別性の高い支援を実施する。
- ⑤新規グループホームにおける地域住民と確実な関係をつくり、既存のホームを含めて自治会役員とのコミュニケーションを増やし、自治会や町内会の行事に参加する機会を増やす。
- ⑥ホーム支援の専従職員を配置し、将来の部門化を見据えつつ、支援マニュアルの質を高めて、各部署の職員が適切に勤務できるようコーディネートする仕組みをつくり、法人全体で支える体制を構築。
- ⑦入居者一人ひとりに合ったインテリアやファッションを提案し、個々の嗜好に応じた生活スタイルを築けるように支援する。

〔共通項目〕

- (1) **クラブ活動**
 - ①ソフトボール ②よさこい
- (2) **個別ワーク・グループワーク**（重点的生活支援プログラム）
 - ①社会的マナー ②生活スキル ③集中力 ④危険防止
- (3) **地域連携・文化事業部「Go On」**
 - ①ガムランを中心にした演奏活動と表現活動
 - ②音楽を通じたワークショップの実施
 - ③各種文化活動を通じたネットワークづくり

〔注力点〕

- ①演奏活動と創作活動の充実
 - ・オリジナルの楽譜づくりや個々が得意とする分野を生かす活動の提案。
 - ・楽譜や歌詞、楽器、踊り、物語を創作し、表現活動として位置づける。
- ②音楽を通じた交流機会の確保
 - ・法人内での部署を横断する取組として、演奏会やワークショップの活動時間をつくり、より多くのスタッフが参加できる仕組みをつくる。また、各部署の職員が積極的に参加するためのコンセンサスを図る。
 - ・ガムランを中心とする音楽を媒体にした市民向けワークショップを企画し、地域交流の契機とする。
- ③芸術・文化のネットワークづくり
 - ・音楽に関係する教育機関（大学等）や音楽家、演奏団体とのネットワークをつくり、活動の活性化を図る。
 - ・全国の障がい者の音楽グループやダンスチーム等と連携する。
 - ・ファッション専門学校と連携したファッションショーの取組を拡充する。

- (4) 計画相談支援
- ①アセスメント
 - ②サービス等利用計画の作成
 - ③サービス担当者会議
 - ④モニタリング
 - ⑤関係機関との連絡調整

[注力点]

- ①必要かつ十分な記録を残しつつ、効率よく訪問及び計画作成等を遂行する。
- ②円滑な支給決定とサービス利用ができるように、書類の作成・提出を早める。
- ③個別課題やニーズをサービス担当者に効果的効率的に伝え、解決改善につなげる。
- ④サービス課題等を関係機関と共有し、事業所連携や制度の改善に貢献する。

[28年度の職員配置]

- | | | |
|-----------|-------------------|---------|
| (1) 正規職員 | 56名 (男性26名 女性30名) | 前年度は50名 |
| (2) 契約職員 | 7名 (男性2名 女性5名) | 前年度は8名 |
| (3) パート職員 | 25名 (男性5名 女性20名) | 前年度は25名 |

[防災計画]

施設長の指揮のもとに、非常災害訓練を年2回実施する。

- (1) 避難訓練 6月・10月
- (2) 消火訓練 6月・10月
- (3) 設備確認 6月・10月

[理事会・評議員会]

- | | | |
|---------|------|---------------|
| (1) 第1回 | ①期 日 | 平成28年5月下旬 |
| | ②場 所 | ワークショップたちばな |
| | ③議 題 | 平成27年度事業報告・決算 |
| (2) 第2回 | ①期 日 | 平成28年12月上旬 |
| | ②場 所 | Myself |
| | ③議 題 | 活動報告・補正予算 |
| (4) 第3回 | ①期 日 | 平成29年3月下旬 |
| | ②場 所 | オリジナルスマイル |
| | ③議 題 | 29年度事業計画・予算 |

[職員会議]

- (1) セクション会議 月に1回の実施
- (2) 生活支援会議 2カ月に1回の実施
- (3) リーダー会議 月に1回の実施